



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 3月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.181 2022.3

紹介内容 (2/1~2/28)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化
 - ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・1
 - 大崎農改：農業法人のHP等の作成支援を行いました
 - 仙台農改：雇用に向けて労務管理勉強会を開催しました
 - 大崎農改：ほ場管理システム「K S A S」勉強会が開催されました！
 - 栗原農改：令和3年度栗原地域農業経営セミナーを開催しました
 - 栗原農改：令和3年度第2回栗原地域普及活動検討会を開催しました
 - 大崎農改：令和3年度農業・農村女性活躍表彰の最優秀賞を受賞
 - 仙台農改：令和3年度農業法人ステップアップセミナーを開催しました
 - 登米農改：登米市産花きと生花店のコラボ企画第5弾「フラワーバレンタイン」商品販売
 - 石巻農改：農業簿記の基礎研修会を開催
 - 石巻農改：農業法人が若手社員向け社員勉強会を開催しました
 - 登米農改：第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会の開催
 - 石巻農改：令和3年度第2回石巻地域普及活動検討会を開催しました
 - 美里農改：若手経営者経営管理講座を開催しました
 - ② 新たな担い手の確保・育成・・・5
 - 石巻農改：石巻地区4Hクラブに入りませんか？
 - 石巻農改：女性農業者を対象とした「水稻栽培勉強会」の開催
 - 大崎農改：大崎4Hクラブ定例会が開催されました
 - ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・5
 - 亘理農改：「初冬直播栽培」現地実証ほ場で播種作業が行われました
 - ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・6
 - 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会土壌診断研修会が開催されました
 - 栗原農改：～せん定の迷いを払拭～ シャインマスカットせん定研修会
 - 栗原農改：～ぶどうを基礎から学ぼう～ ぶどう栽培技術講習会
 - 亘理農改：水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会が開催されました
 - 仙台農改：水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会を開催しました
 - 栗原農改：かぼちゃ栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：果樹の新規導入に向けた視察を行いました
 - 気仙沼農改：せり栽培視察研修会が開催されました
 - ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・8
 - 美里農改：小牛田地区で水稻乾田直播栽培実績検討会が開催されました
 - 大崎農改：JA古川肉牛巡回検討会が開催されました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援（続き） 9
- 登米農改：加工用ばれいしょ栽培検討会が開催されました
- 石巻農改：農業法人と水稲作柄勉強会の開催

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援 9
- 大崎農改：管内の水稲種子を生産する農協の担当者会議を開催しました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 10
- 石巻農改：「石巻地域農産物直売所マップ」が完成
- 気仙沼農改：第2回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
- 仙台農改：株式会社仙台秋保醸造所が第51回日本農業賞「食の架け橋の部」優秀賞を受賞！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○農業法人のHP等の作成支援を行いました 令和4年2月1日 大崎農業改良普及センター



1月25日に岩出山の株式会社まやまのさとうファームにおいて、販売促進に向けたHPやロゴマークの作成支援を行いました。

まやまのさとうファームは高糖度トマトと水稻の栽培を行っており、令和3年4月に法人登記を行いました。今回は宮城県農業経営相談所の御協力のもと、農産物のパッケージデザインなどの経験豊富なデザイナーをお招きしました。

事前課題として普及センターが作成したワークシートに、法人設立のきっかけや強みについて整理していただき、更に法人の代表からは「道の駅の販売で、一目でわかるロゴマークが欲しい」といった要望が出されました。専門家からは事例紹介やPRの方向性についてヒアリングが行われ、継続した支援について情報交換が行われました。

普及センターでは今後も継続的に農業法人の経営安定に向けた支援を行ってまいります。

○雇用に向けて労務管理勉強会を開催しました 令和4年2月2日 仙台農業改良普及センター



1月24日、仙台市太白区秋保で水稻、大豆、そばを栽培している農事組合法人あきう生産組合を対象に、労務管理勉強会を開催しました。当法人は構成員の高齢化もあり、経営承継を見すえて新たな社員の採用を考えているものの、農閑期の対応などに課題があり、その対応について検討していました。

そこで、社会保険労務士法人プロゲート仙台オフィス所属の庄司弥生先生を講師に招き、「従業員の雇用に向けて」と題して、講義をいただきました。雇用を始めるタイミング、雇用が経営により効果をもた

らした法人の事例、雇用をするために必要なことなどについて学んだほか、「雇用に向けて自分たちができること」についてワークショップが行われました。参加者からは既存施設の活用や新たな取組の提案など活発に意見が出され、雇用に向けた具体的な内容について検討されました。

普及センターでは、当法人が雇用に向けた体制を整備できるよう支援していきます。

○ほ場管理システム「KSAS」勉強会が開催されました！ 令和4年2月4日 大崎農業改良普及センター



2月1日に加美町の農事組合法人いかずちにおいて、ほ場管理システム「KSAS」の勉強会が開催されました。

農事組合法人いかずちでは、アグリテック技術を用いた精密・省力な水稻種子生産を行っています。今回の勉強会では、宮城県と農業分野における包括連携協定を締結した株式会社クボタグループの一員で、みやぎアグリテックアドバイザーを務めるクボタアグリサービス株式会社の石橋英典氏を講師に、「KSAS」の基本的な操作及び機能の活用方法について学びました。

「KSAS」は、ほ場管理、肥培管理、作業計画、作業記録等をパソコンやスマートフォンで管理することができる営農支援システムです。勉強会に参加した構成員からは、実際に「KSAS」を使用して感じた改善点や疑問点について多くの質問があり、まだ手探り状態だが、有効活用できるように今後も勉強会を開催していきたいとのことでした。

普及センターでは、引き続きアグリテック推進に向けた支援を行ってまいります。

○令和3年度栗原地域農業経営セミナーを開催しました 令和4年2月8日 栗原農業改良普及センター



2月1日に、宮城県栗原合同庁舎において、令和3年度栗原地域農業経営セミナーを開催しました。本セミナーは、栗原管内の農業者を対象に、経営改善・発展の一助とすることを目的に、栗原農業改良普及センターと栗原市農業経営・生産対策推進会議が共催し、管内農業者8名が参加しました。

セミナーでは、一般社団法人食農共創プロデューサーズ 代表理事の長谷川潤一氏が講師となり、「時代の先を見据えたビジネス創出と人材づくり～そのための戦略と戦術視点～」と題し、ご講演をいただきました。なお、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師はオンラインでの参加となりました。

講演では、コロナ禍での消費動向の変化、人口減少・高齢化など、日本の社会・経済は大きく変化しており、時代の変化に対応した経営戦略が必要となること、農業経営を発展させるための人材育成には、コミュニケーションが重要であること等について、お話しいただきました。

参加者からは、「社会の変化に対応できるよう、今後の経営の参考にしていきたい」との声が聞かれ、今後の農業経営を考える上で、有意義なセミナーとなりました。

○令和3年度第2回栗原地域普及活動検討会を開催しました 令和4年2月8日 栗原農業改良普及センター



2月3日、今年度2回目の栗原地域普及活動検討会をオンライン併用方式で開催しました。

今回は、完了課題「きゅうり生産の見える化による栽培技術のレベルアップと産地生産力の強化」、「農地整備を契機に設立した農事組合法人の営農モデル構築」及び「スマート農業技術の活用による土地利用型作物の生産性向上」と、継続課題「集落の維持・発展を目指す法人経営体へのステップアップ」の4つのプロジェクト課題の取組成果について検討し、外部有識者の委員から農業法人への普及指導方針等について質問や意見をいただきました。

また、令和4年度栗原農業改良普及センター普及指導方針・普及指導計画について、意見を伺いました。

栗原普及センターでは、オンライン併用方式での検討会は初めての試みでしたが、遠方の委員にもオンラインで参加していただき、会場の委員と積極的な意見交換をすることができました。

今回の普及活動検討会でいただいた助言・意見等については、今後、所内でとりまとめを行い、これからの普及活動に活かしていくこととしています。

○令和3年度農業・農村女性活躍表彰の最優秀賞を受賞 令和4年2月10日 大崎農業改良普及センター



2月4日に宮城県農業・農村女性活躍表彰の授賞式が県庁で行われ、大崎市古川の坂井悦子氏が女性地域社会参画部門（個人）で最優秀賞を受賞されました。

この表彰は宮城県が主催で、農業・農村において地域の特色を活かした起業活動や子育て支援、女性のキャリアアップなどを行っている女性農業者や団体を表彰し広く紹介するものです。今年度は他に3組の方が受賞されました。

坂井氏は自家栽培した大豆と減農薬栽培した米の麴で味噌加工を行い、農業の6次化に早くから取り組んでおり、また、食材王国みやぎ「伝え人」として、添加物を使わない昔ながらの味噌づくりを教える食育活動や、地域からの期待に応え多くの役職を務めるなど、長年の功績が認められました。

これまでの功績に深く敬意を表するとともに、今後も農業経営の発展の他、地域のみならず県内農業の活性化に向けて活躍されることを期待しています。

○令和3年度農業法人ステップアップセミナーを開催しました 令和4年2月10日 仙台農業改良普及センター



普及センターでは、仙台市及び公益財団法人みやぎ産業振興機構と共催で「農業法人ステップアップセミナー」を開催しました。参加者の皆様には、マスクの着用やパーティションの使用等により、新型コロナウイルス感染症対策に御協力いただきました。

毎年恒例の当セミナーは、今年度は農業法人の経営者及び若手・中堅社員を対象とし、人材育成や雇用管理、経営承継を題材に、令和4年1月7日から全4回コースで開催しました。当普及センター管内の10法人から18名の参加がありました。講師として、一般社団法人ひと・企業未来創造リンク(LinCs)に所属

する庄司弥生社会保険労務士、松倉恵子特定社会保険労務士をお招きし、組織力の向上と発展につながる講義とワークショップを行いました。また、最終回では、有限会社耕佑（栗原市）の伊藤秀太代表取締役から、「地域が継続するための事業継承・会社作り」と題して、実経験に則した事例紹介をしていただきました。

参加者からは「組織における自分の役割を再認識することができた」、「経営承継の事例を聞くことができて大変勉強になった」等の声をいただきました。

○登米市産花きと生花店のコラボ企画第5弾「フラワーバレンタイン」商品販売 令和4年2月16日 登米農業改良普及センター



2月14日はバレンタインデーであり、世界中でも多く花を贈る日です。この特別な日に合わせて、登米市産花きの商品化を図るため、普及センターと地方振興事務所は、昨年、市内の生産者による花を用いた商品づくり及び試験販売を支援しました。

今年のパレンタイン企画では、新たに登米市内菓子店の焼菓子を組み合わせた販売を提案しました。「大人のフラワーバレンタイン」をテーマに商品の一部リニューアルし、地元産のばらの切り花を生花店のプロの技でアレンジしたスタンディングブーケと、ラッピングしたプリムラの鉢物の2商品を用意し、3つの生花店で予約販売しました。事前に新聞社による取材と記事掲載もあり、予定数を超える多くの方々にご購入いただきました。

普及センターでは、今後も、花の産地「登米市」のPR、地元産花きの販売促進に向けた支援を行っていきます。

○農業簿記の基礎研修会を開催 令和4年2月16日 石巻農業改良普及センター



12月から4回シリーズで始まった農業簿記基礎研修会の第4回を1月19日に開催しました。新規就農者や女性農業者など5人が参加し、うち3人は4回全て参加し、農業簿記の基本をしっかりと学びました。

最初は仕訳に苦労していましたが、元帳への転記、合計残高試算表、精算表と演習を重ね、複式簿記による記帳から決算までの流れを確認することができました。

同時に開催していた簿記記帳会では、先輩農業者が行っていたパソコンによる農業簿記記帳について、「手書きの簿記記帳と何が違うか」、「実際に記帳しての苦労」といった感想を直接聞き、「今後の簿記記帳はパソコンを使って行い、青色申告する」という新しい目標を立てていました。

当普及センターでは、引き続き、農業者の経営管理向上のため、簿記記帳をサポートしていきます。

○農業法人が若手社員向け社員勉強会を開催しました 令和4年2月21日 石巻農業改良普及センター



2月4日に、株式会社宮城リスタ大川が社員勉強会を開催し、社員6人が出席しました。石巻農業改良普及センターでは、令和2年から石巻市大川・北上地区の農地復旧を担う3法人の支援を目的としたプロジェクト「被災農地における土づくりの推進による生産性向上」を実施しており、本勉強会はその活動の一環として開催したものです。宮城リスタ大川は非農家出身の若手社員もいるため、今年度も栽培管理技術と生産性向上を目的とした作業時期ごとの研修会を開催しています。今回の勉強会では、令和3年度の水稲の作柄についてのまとめを行いました。

普及センターから稲作情報総括号をもとに、今年度の生育状況や収量調査の結果と栽培管理のポイント、乾田直播栽培における水管理の方法や、復旧農地での堆肥施用による収量向上効果などを説明しました。社員からは、水管理の切り替え時期や追肥の要否、刈取適期の判断ができたと報告があり、今年度の勉強会を通して学んだことを活かして、ほ場の条件や水稲の状況を見極めた管理を行っている様子でした。最後に、来年度は乾田直播栽培面積の拡大や、WCS用稲作付けなど新しい取組を行うとのことで、社員の方々と来年度作へ向けた意見交換を行いました。

当普及センターでは、農業法人で活躍する若手社員の技術向上、復旧農地の地力向上の取組を支援していきます。

○第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会の開催

令和4年2月24日

登米農業改良普及センター



1月31日、普及活動への外部評価のため、第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました。今回、普及センターが重点的に取り組むプロジェクト課題について、令和3年度の成果や令和4年度の計画に対し、7名の検討委員から意見をいただきました。

令和3年度「土地利用型農業法人の体制整備による経営安定」については、組織体制構築に向けた伴走型の支援に対して評価をいただくとともに、多くの法人の課題である組織運営に関する支援であることから、更なる能力向上が求められました。また、「きゅうり環境制御技術のスキルアップによる生産拡大」については、スキルを身に付けて収量が向上する一方で、燃料費や労力のコスト増加も懸念されることから、コスト評価も取り入れた横展開への期待の声がありました。「水稻乾田直播栽培技術の向上と安定生産」については、水稻栽培における有力な省力化技術としてさらに拡大が期待されることから、技術のポイントやコストなどの見える化に期待する意見をいただきました。

令和4年度の新規課題「加工用ばれいしょの栽培技術向上」、「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」に関しては、登米市やJAみやぎ登米も重要視しており、転作品目としての「加工用ばれいしょ」の可能性や生産振興に期待が寄せられたほか、当該農地整備地区は、登米市の初期型ほ場整備再生モデル地区となっていることから、両機関との連携した活動への提案がありました。

今回頂いた実績への評価、計画への提案などを、令和4年度普及活動計画の検討に活かしていきます。

○令和3年度第2回石巻地域普及活動検討会を開催しました

令和4年2月26日

石巻農業改良普及センター



石巻地域の普及指導計画等の効率的かつ効果的な推進を図るため、農業者や市、農協等の外部検討委員7名を招き、「令和3年度第2回石巻地域普及活動検討会」を2月3日に石巻合庁で開催しました。

令和3年度のプロジェクト4課題のうち3課題は終了となるため、これまでの活動の成果をまとめて報告しました。

①石巻市大川・北上地区で復旧農地に堆肥を投入、水稻の収量を上げる取組では、地域内の耕畜連携により地力の増進が図られたこと、②東松島市大曲地区の大規模経営法人の組織力強化の取組では、標準作業書作成や社内の情報共有化が進んだこと、③県育成のいちご品種「にこにこベリー」の園芸法人での安定生産の取組では、品種の特性をつかみ、収量増が達成され、品質の良い苗が確保できたことを報告しました。

委員の方々からは、これらの成果を他の地域、品目にも波及させて欲しい、一般の方々向けにも情報発信を工夫して欲しいといった御意見をいただきました。

令和4年度に新たなプロジェクト課題となる予定の3課題（①いちごの産出額向上、②園芸法人の育成強化、③持続的な水田農業の実現）についても、生産者の高齢化や生産額向上に向けた良い取組として期待します、との御意見をいただきました。

今回の検討会で各委員よりいただきました御意見等を参考にし、今後の普及活動を計画的かつ効率的に展開していきます。

○若手経営者経営管理講座を開催しました

令和4年2月28日

美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センターでは、若手農業経営者が経営の計数化を通して経営管理能力の向上を図ることができるよう、「若手経営者経営管理講座」を開催しました。講座は12月から1月にかけて4回行い、普及指導員を講師に、簿記記帳の目的や簿記の種類や仕組み、日常の仕訳から決算までの流れについて講義を行いました。

毎回15人程度の新規就農者を含む若手経営者が受講し、夫婦同伴での参加も多く見られました。

農業特有の勘定科目や消費税の複税率、補助金を受けた場合の圧縮記帳など、難しいところもありましたが、毎回参加者からは熱心に質問が出されていました。

受講者の中には令和3年より複式簿記による青色申告を行う方もおり、今後は、作成した決算書を元に経営改善に向けた支援を行う予定です。

②新たな担い手の確保・育成

○石巻地区4Hクラブに入りませんか？

令和4年2月8日

石巻農業改良普及センター



石巻地区農村青少年クラブ連絡協議会（石巻地区4Hクラブ）は、水田、園芸、畜産など様々な部門で営農している20代から40代の男性14人で活動しており、毎月の定例会や、青空市での販売活動、視察研修など、毎年さまざまなイベントを通して自己研鑽を行っています！

1月28日にクラブ員2人と普及センター職員で管内の農業法人を訪問して、4Hクラブの紹介・勧誘活動を行いました。

☆石巻地区4Hクラブでは、新規会員を募集しています！☆

若手農業者の仲間がほしい、視野を広げて自己研鑽がしたい、自分で作った農産物の販売をしてみたい、そんな方におすすめです。

一緒に石巻地区の農業を盛り上げませんか？農業法人や個別農家問わず会員を募集しています。

石巻地区4Hクラブに入会いただくと、石巻地区のみならず、県内各地、さらには全国の若手農業者と交流できます。

ご興味のある方はどうぞお気軽に、普及センターまでご連絡ください。

○女性農業者を対象とした「水稻栽培勉強会」の開催

令和4年2月10日

石巻農業改良普及センター



石巻農業改良普及センターでは、1月31日に管内の若手女性農業者グループであるベジ☆hopeを対象とした「水稻栽培勉強会」を開催しました。このグループは平成24年に設立され、生産技術の向上や他の女性農業者とのつながりを作るため、水稻や野菜の栽培などを行う女性農業者で構成されています。

今回の勉強会は、水稻の栽培に携わる会員が、自分で水稻や水田の状況を判断して適切な管理ができるようになることを目的に、普及センター職員が講師となって行われました。例えば種子消毒は、いもち病

やばか苗病などの病原菌を殺すために行うことや、水管理は丈夫な稲を作るために水稻の生育に合わせて水を深くしたり浅くしたり調整することなど、年間を通して1つ1つの作業について根拠を中心とした内容でした。

参加者からは、「これまでは、指示された作業を言われたとおり行っていた。なぜ行うのかが理解でき、考えて作業を行うことができる。社内では、ベテランの人が多いため初歩的な質問がしづらく、また勉強会や検討会には同年代や女性が少なく参加できていなかったが、今回は質問しやすかった。ぜひまた開催してほしい」との発言や、様々な質問が飛び交う活発な勉強会となりました。

○大崎4Hクラブ定例会が開催されました

令和4年2月28日

大崎農業改良普及センター



大崎4Hクラブの定例会が、2月8日に大崎合同庁舎で開催され、クラブ員9名が出席しました。

今回は、加美農業高等学校との交流について話し合いが行われました。これまでクラブ役員が加美農業高等学校と準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大していることから、交流会は延期になりました。一方、生徒から事前に寄せられた農業に関する質問には、2月中に回答することになりました。新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、実際の訪問については今春に実施する方向として、検討を続けることになりました。「感染対策をしながら、実際に顔を合わせて交流する温度感も大切にしたい」等活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も大崎4Hクラブの活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

○「初冬直播栽培」現地実証ほ場で播種作業が行われました

令和4年2月10日

亘理農業改良普及センター



2月8日・9日、岩沼市の「初冬直播栽培」現地実証ほ場で、水稻の播種作業が行われました。

「初冬直播栽培」は、平年20年に岩手大学が考案した技術で、慣行では3月から4月にかけて行われる水稻乾田直播栽培の播種を、積雪前の年内に行うことで、作期を拡大することができます。古川農業試験場の現地試験として、亙理農業改良普及センター管内の法人が、令和4年作からの実証ほ場を担当することになりました。

普及センター管内を含む仙台湾沿岸部は積雪が少ない地域であることや、水稻収穫後は年末年始にかけて大豆の収穫や稲わらの収集作業を行っている生産者も多いことから、実証試験では、慣行（3月中旬～4月中旬）より早い、年明け播種の適応性を検討します。

播種作業は、種子を殺菌剤・忌避剤でコーティングすること、播種量をやや多くすることを除いて慣行どおりに行われ、播種後は慣行と同様に管理されます。今後は、出芽時期や苗立ち数等の生育状況を調査する計画となっています。

普及センターでは、今後も水稻直播栽培の拡大に向けて支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会土壤診断研修会が開催されました

令和4年2月4日

美里農業改良普及センター



1月18日に、仙台小ねぎ部会の部会員を対象とした定例の土壤診断研修会が開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を十分に行うため、午前と午後の2部制としました。

普及センター職員が講師となり、土壤診断の各項目において、小ねぎ栽培で特に要点となる部分を重点的に説明しました。各部会員の土壤診断票についても個別に解説を行い、塩基バランスの補正や除塩などの改善策を提案しました。

あわせて、今年度のプロジェクト課題で実施した土壤物理性調査から、土壤硬度や仮比重などの現状と対策について説明しました。また、熟練栽培者の栽培管理をセンサーを用いて「見える化」した調査から、高品質な小ねぎ生産で重要となるかん水と土壤水分の関係をグラフにして分かりやすく示しました。

全体では窒素単肥などの取組により土壤診断値は改善傾向にあります。作土の硬さやかん水ムラも、普及センターで作成したセルフチェックマニュアルを用いて確認するよう働きかけました。

普及センターでは、引き続き持続性の高い小ねぎ生産に向けて、土づくり等の支援を行ってまいります。

○～せん定の迷いを払拭～ シャインマスカットせん定研修会

令和4年2月9日

栗原農業改良普及センター



栗原地域では、水稻育苗ハウスを活用したシャインマスカット等の栽培が始まっており、新たな園芸品目として、平成30年度から栗原圏域産地戦略プランの重点振興品目に位置付けられています。普及センターでは、シャインマスカットをすでに導入している生産者及び今後導入意向のある方々を参集し、定期的に研修会を実施しています。

今回は1月18日、栗原市金成にて、その年の作柄を左右する重要な作業、「せん定」について研修会を開催したところ、25人の生産者が集まりました。栗原市金成でシャインマスカットを手がける田中学さんを講師に、まずは芽の種類や芽座、犠牲芽せん定などの用語について説明いただいたあと、実際に枝を鋏んでいただきました。

短梢せん定は栽培歴の浅い人でもわかりやすい技術ではありますが、いざ鋏を入れるとなると迷いが出てしまいます。講師の田中さんからは「なぜこの枝を切るのか、自分で理由を声に出しながら鋏を入れていくように」と指導があり、実際に参加者にも樹を鋏んでもらうなど、より実践的な研修となりました。

普及センターからも、着果量の決定とそのために残す芽数の計算について説明を入れ、せん定の加減について指導しました。

○～ぶどうを基礎から学ぼう～ ぶどう栽培技術講習会

令和4年2月9日

栗原農業改良普及センター



栗原地域では、シャインマスカット栽培への関心が高まっており、栽培者も徐々に増えてきています。しかし、「水稻育苗ハウスを活用して誰でも簡単にできる」というフレーズが先行している上に、「皮ごと食べられるおいしい品種」ということも相まって、ぶどう栽培の基礎を知らないまま導入してしまう人も少なくありません。

導入や栽培が先行している中で陥りやすいのが、基本的栽培技術を習得せず栽培年数を積んでしまうと、「今さら聞けない」まま、いつも疑問を持ちながら栽培に取り組んでしまうことです。

そこで、シャインマスカットに限らず、ぶどうの生理生態を学んでもらおうと、1月31日に「ぶどう栽培技術講習会」を開催したところ、25人の参加がありました。

これまでの研修会では、房づくりやせん定など、現場で実践を学ぶ機会はありましたが、今回の座学の講習では、ひとつひとつの作業が何のために、なぜ適期にしなければならないのかを、ぶどうの生理生態から学んでもらう内容にしました。参加者の方々は、ジベレリン処理一つとってみても、なぜ2回行わなければならないのか、なぜ適期を守らなければならないのかを改めて知ることにより、ぶどうの生理を知ることの重要性を認識されたと思われまます。

ぶどうの生理生態をバックボーンに、今後も適時適切な栽培に取り組んでもらうよう、普及センターでは今後も理論と実地の両面で支援してまいります。

○水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会が開催されました 令和4年2月15日 巨理農業改良普及センター



水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会が、2月9日、岩沼市長岡地区のほ場で開催されました。

この研修会には、加工用ばれいしょの栽培を行う管内の法人や、排水対策に関心のある生産者、関係機関が50名以上参加しました。

研修会では、加工用ばれいしょを栽培する水田3区画それぞれに、カットブレイカー、カットドレーン、サブソイラを使用した排水対策を施工し、参加者は3機材の施工の様子や、施工後の土壌を熱心に見学し、活発な意見交換が行われました。

今回、排水対策が実施されたほ場では、3月下旬にばれいしょの植付けが行われる予定であり、普及センターでは、農業・園芸総合研究所と連携し、その効果を検証していく計画です。

普及センターでは、今後も水田を活用した大規模露地園芸推進に向けて支援してまいります。

○水田を活用した大規模露地園芸推進のための排水対策研修会を開催しました 令和4年2月15日 仙台農業改良普及センター



県では令和3年4月に今後5か年の園芸振興計画「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」を策定し、その中で水田における高収益作物生産の推進と、安定生産技術の確立に取り組むこととしています。

当普及センターでは普及プロジェクト課題として、大郷町の「土地利用型法人によるえだまめの生産体系の導入定着」について支援を行っており、今年度の活動の中で、課題として水田転作における排水対策の改善が浮き彫りになりました。

そこで、2月8日に大郷町、農業・園芸総合研究所、仙台農業改良普及センターの主催により、大郷町の水田転作えだまめ栽培ほ場を会場に、排水対策研修会を開催しました。最初に、農業・園芸総合研究所と県園芸推進課から、水田を活用した大規模露地園芸推進の取組や関連施策について紹介を行い、続いてヤンマーアグリジャパン(株)から、補助暗渠を施工する3機種カットブレイカー、カットドレーン、サブソイラの説明と施工実演を行いました。このうち2機種は最新の補助暗渠施工機であり、初めて見る機械に参加者(生産者・JA・関係機関等約60名)は興味深く見学していました。

○かぼちゃ栽培講習会が開催されました 令和4年2月16日 栗原農業改良普及センター



2月10日、JA新みやぎ栗っこの瀬峰野菜集荷場及び志波姫支店会議室で、トンネル栽培・普通栽培かぼちゃ栽培講習会が開催され、管内の生産者22名と種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、高畝やマルチによる排水対策を行うこと、昨年被害の多かった霜害に備えて週間天気予報等を確認しながら定植をすること、開花日を記録して適期に収穫すること等の説明がありました。

普及センターからは、管理作業による耕種的防除や障壁による物理的防除など様々な防除方法を組み合わせる、化学農薬だけに頼らない総合的な防除方法について説明しました。また、病虫害防除に使用できる薬剤を、速効性などの特徴を説明しながら提案しました。

参加者は、土づくりの重要性や効果的な防除方法を改めて確認し、生産技術を高めた様子でした。

普及センターでは、JA新みやぎ栗っこのかぼちやの安定生産に向けて、今後も継続して支援していきます。

○果樹の新規導入に向けた視察を行いました 令和4年2月18日 石巻農業改良普及センター



石巻地域は県内でも果樹栽培が少ない地域ですが、ここ数年、東日本大震災の津波被害から復旧した農地や防災集団移転跡地への新植、また、水稻育苗ハウスへのぶどうの新植などにより、徐々に果樹栽培面積が増加しつつあります。

このような中、石巻市の河南地区でなすや小松菜などの野菜を大型施設で栽培している株式会社Danny Farmでは、将来観光農園の開設など経営の多角化を図るため、令和3年度に日本なしを新植しました。しかし、これまで日本なしの栽培経験がなかったことから、栽培の実際について学ぶため、県の農業・園芸総合研究所の視察を行うことにしました。

研究所の職員から、日本なしの通常の栽培方法である平棚仕立てや、神奈川県で開発され、樹と樹を接いで1列につなぐジョイント栽培、また現在、農業・園芸総合研究所で試験を進めているY字型仕立てなど、様々な栽培方法についてのそれぞれの長所、短所や、棚や支柱の設置にかかる初期投資費用などの説明を受け、今後の日本なし栽培についてのイメージをつかむことができました。

普及センターでは、このような新規に果樹栽培を開始する農業者に対する支援や、既存園地の生産拡大により、管内の園芸振興を図っていきます。

○せり栽培視察研修会が開催されました 令和4年2月28日 気仙沼農業改良普及センター



2月15日、せりの栽培技術向上を目的として、JA新みやぎ南三陸地区本部管内の生産者を対象に栽培研修会が開催され、県農業・園芸総合研究所を視察しました。生産者と関係機関を含め6名が参加して、前半は農業・園芸総合研究所の露地野菜チームの試験ほ場を視察し、後半は担当者からせり栽培の年間

スケジュールや病虫害防除について講義をいただきました。

ほ場視察ではせりの品種特性について理解を深め、講義では産地の植付方法や水管理など栽培管理について学びました。生産者からは施肥管理などについて多くの質問があり、有意義な研修会となりました。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○小牛田地区で水稻乾田直播栽培実績検討会が開催されました 令和4年2月1日 美里農業改良普及センター



小牛田乾田直播種研究会は、水稻乾田直播栽培の技術向上を目指し、会員11名で活動を行っています。令和3年度の乾田直播面積は約42haで、9名の会員が取り組みました。

1月27日に実績検討会が開催され、普及センターからは、水稻全般の作柄や小牛田地区の直播面積の推移を説明しました。また、参考として、今年度小牛田地区で行った湛水直播展示ほの事例を紹介し、出穂直後の低温により登熟がやや緩慢となったものの、収量には大きな影響はなかったことを説明しました。古川農業試験場からは、県内の乾田直播栽培の調査結果や除草剤試験結果の説明が、農薬メーカーの担当者からは、研究会員のほ場で実施した除草剤試験の結果と、次年度の除草体系の提案がありました。

平均単収は535kg/10a、最高収量は632kg/10aという事務局からの説明があり、会員の技術の高さが感じられました。意見交換では「後発のヒエが多かったので、提案された除草体系で取り組んでみたい」、「良い出芽のためには播種深度と鎮圧が重要」等の意見が出されていました。

育苗の負担軽減を図ることができる乾田直播栽培は、今後も増加することが予想されます。

○JA古川肉牛巡回検討会が開催されました 令和4年2月3日 大崎農業改良普及センター



1月26・27日に、JA古川肉牛部会巡回検討会が開催されました。JA古川肉牛部会では年に2回、関係機関、獣医師、部会役員が部会員全戸を訪問し、畜舎内外の清掃状況や、飼養管理体制の統一推進に向けた取組を実施しています。

第2回となる今回は、肉牛を巡る情勢の説明後に新型コロナウイルス感染症の再拡大を踏まえ、飼養規模の大きな部会員を中心に巡回し、防寒対策を重点に、飼養管理全般について個別に検討がされました。また、飼料価格が高騰している中で、JA古川の新たな取組として子実用とうもろこし栽培について話題提供があり、循環型農業に向けた堆肥施用の協力についての確認が行われました。検討会全体について、関係機関からは、換気対策が十分に行われ、呼吸器疾患がなく良い状態である。牛床が乾燥し、牛体の手入れが行き届いているなどの感想がありました。

普及センターでは、引き続きJA古川肉牛部会の取組や、肉用牛の飼養管理改善に向けた支援を行っています。

○加工用ばれいしょ栽培検討会が開催されました 令和4年2月8日 登米農業改良普及センター



1月25日、迫川沿岸土地改良区主催で、加工用ばれいしょ栽培検討会が開催されました。検討会には、改良区管内でほ場整備事業を計画している地域の担い手5人が参加しました。

まず、カルビーポテト株式会社から、全国の産地における生産状況や、宮城県での作付け拡大に対する期待について説明がありました。さらに、JAみやぎ登米から「登米ぼてと組合」や生産支援策について、普及センターからは栽培上の留意点などについて説明しました。

参加者の地域では、ほ場整備に伴って導入する高収益作物の候補としてばれいしょが検討されており、栽培適性や生産者への支援について質疑が交わされ、品目選定の参考となる検討会となりました。

○農業法人と水稲作柄勉強会の開催 令和4年2月15日 石巻農業改良普及センター



1月14日に、株式会社めぐいと（東松島市）の水稲担当者を対象に、水稲作柄勉強会を開催しました。石巻普及センターでは株式会社めぐいとを対象に、プロジェクト課題「組織力強化による農業法人の経営ステップアップ」に取り組んでいます。これまでに業務用多収米品種「つきあかり」の生育調査や、生育ステージに応じた勉強会を行ってきました。

今回、4回目の勉強会では、次期作の参考となるよう、昨年の生育調査結果から、収量を構成する穂数、籾数、登熟歩合、千粒重等を「ひとめぼれ」と比較し、業務用米の品種特性について説明しました。また、令和3年産の作柄を振り返り、1年を通じた稲作の栽培技術についての理解を深めました。

若手社員からは、これまでの勉強会を通して、知識が定着したという感想をいただきました。普及センターでは、今後も、栽培技術指導を通じた経営のステップアップを支援していきます。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○管内の水稲種子を生産する農協の担当者会議を開催しました 令和4年2月10日 大崎農業改良普及センター



県内の水稲生産者の中には、一般農家が次作に使う「イネのたね」を生産する「採種」と呼ばれる経営部門をもつ農業者がいます。大崎農業改良普及センター管内は、この稲の採種で県内の6割を担う「たね」の産地です。水稲生産に使われる種籾は、遺伝的に純正で異品種が混入しておらず、病害虫に侵されていないなどの条件があり、厳しい基準に合格したいわゆる「優良種子」でなければなりません。

このため、県内で作付される水稲優良品種に関して、主要農作物種子条例に基づき、採種ほ場における審査（特定種子生産ほ場審査）と、そこから採れる種籾に対して、発芽の良否や不良な種子等の混入がないかを審査（生産物審査）しています。

普及センターでは2月7日に、採種農家の取りまとめや、製品の流通等を担う農協の担当者を集めた「第2回管内種子場農協担当者会議」を開催しました。会議では、令和3年産の水稲種子生産の実績と総括、令和4年産に向けた取組方針や種子生産技術に係る新たな知見の提供、継続的な優良種子生産のための改善点や留意点などが話し合われ、有意義な会議となりました。

種子場（たねば）では、令和5年産の水稲生産に向け、厳しい基準に合格する種子生産への取組がすでに始まっています。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

- 「石巻地域農産物直売所マップ」が完成
令和4年2月15日
石巻農業改良普及センター



石巻地域の生産者の農産物を取り扱う20か所の直売所の情報を掲載した「農産物直売所マップ」を作成しました。

このマップは平成27年度に当所で作成したものを、新たにオープンした直売所を加え、更新したものです。それぞれの直売所で扱うものが異なり、その時期、そこでしか手に入らないものも多くあります。石巻地域にお出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。

マップは、各直売所に設置しているほか、東部地方振興事務所農業振興部のHPで御覧いただけます。

- 第2回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
令和4年2月15日
気仙沼農業改良普及センター



2月2日に、第2回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました。検討会には、管内の指導農業士や市町等の関係機関、マスコミ関係者など委員8人に出席していただき、普及センターで重点的に取り組んでいるプロジェクト課題の活動状況と令和4年度普及指導計画案について検討しました。

プロジェクト課題については、「ねぎといちごの販売拡大による経営の安定」、「市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展」、「持続的な地域営農の実現に向けた担い手の経営安定」の3課題の活動

状況と成果を報告し、委員からは収益面、労働面等からの質問や、活動方法についての助言、評価をいただきました。また、令和4年度普及指導計画案については、計画の概要と令和4年度に新たに立ち上げるプロジェクト課題について説明しました。

今回の普及活動検討会でいただいた助言、意見等については所内でとりまとめを行い、これからの普及活動に活かしてまいります。

- 株式会社仙台秋保醸造所が第51回日本農業賞「食の架け橋の部」優秀賞を受賞！
令和4年2月21日
仙台農業改良普及センター



仙台市太白区秋保の株式会社仙台秋保醸造所が、第51回日本農業賞「食の架け橋の部」で優秀賞を受賞しました。

日本農業賞は、日本放送協会（NHK）及び一般社団法人全国農業協同組合中央会、都道府県農業協同組合中央会が主催し、「食の架け橋の部」は、農業者と消費者を結ぶ優れた活動や、未来の豊かな生き方・地域づくりへのヒントとなる食や農の活動を行っている個人や団体を表彰しています。

株式会社仙台秋保醸造所代表の毛利親房氏は、東日本大震災で途絶えた宮城のワイン産業復興と地域再生の思いで一念発起し、一からブドウ栽培とワイン造りに取り組みました。また、担い手育成にも尽力し、その後県内に5か所のワイナリーが開設されるなどの波及効果をもたらしました。さらに、「人、食、風景、文化」というキーワードを軸に、テロワール（風土と人の営み）とマリアージュ（食と酒のペアリング）を掛け合わせた造語「テロワージュ」を提唱し、秋保温泉の旅館とタッグを組むほか、宮城県内の酒蔵や工芸作家、行政機関も巻き込み、東北全体を盛り立てる様々なイベントを開催しています。

今回の受賞は、「人・地域・文化・産業をつなぎ、はぐくむワイナリー」を目指した実践的な経営が、様々な人や資源を結びつけ、豊かな地域社会づくりに大きく貢献されたとして評価され、全国32件の応募の中から見事に優秀賞に選ばれたものです。おめでとうございます！

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

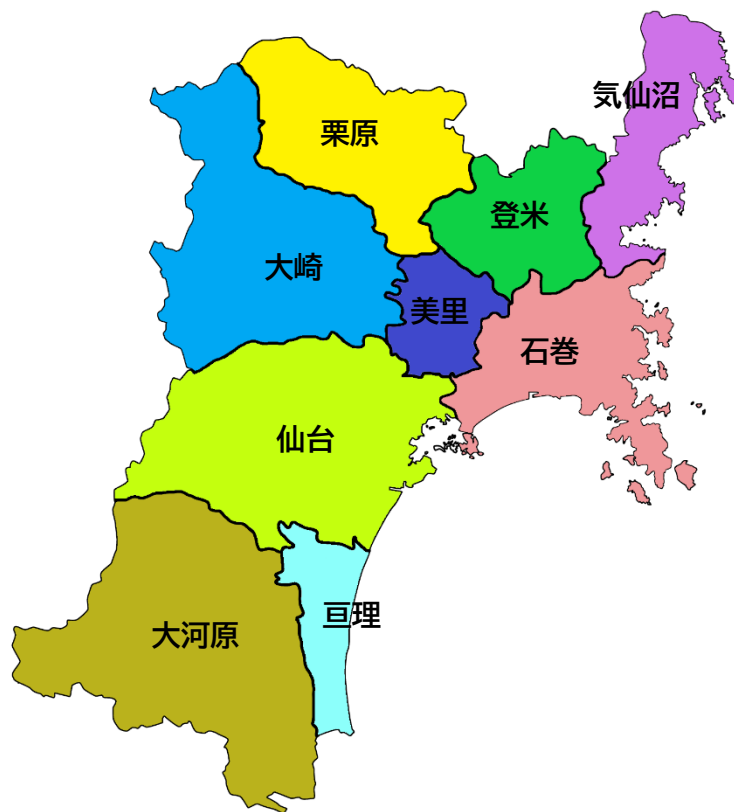
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.181

発行日:2022年3月24日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp